

日本循環器学会による循環器疾患実態調査(JROAD)に参加した医療機関で、
入院中に心原性ショックの治療を受けた患者さん・ご家族様へ

当院では、日本循環器学会が実施する循環器診療の実態調査のデータベースを利用して、「全国大規模データを用いた心原性ショックの死亡率の改善と新規補助循環装置の効果」を行っています。この研究は、日常診療で得られた以下の診療情報を研究データとしてまとめるものです。研究のために、新たな検査などは行いません。この案内をお読みになり、ご自身またはご家族様がこの研究の対象者にあたると思われる方で、ご不明な点がある場合は、下記の担当者までご連絡ください。

【対象となる方】

日本循環器学会に協力する JROAD 参加施設に 2012 年 4 月～2023 年 3 月の間に心原性ショックで入院した方

JROAD 参加施設一覧：https://www.j-circ.or.jp/jittai_chosa/about/facilities/

【研究課題名】 全国大規模データを用いた心原性ショックの死亡率の改善と新規補助循環装置の効果

【研究責任者】 国立循環器病研究センター 心臓血管内科 部長 野口暉夫

【研究の目的・意義】

わが国における心原性ショックの頻度や原疾患および転帰に関するデータが不足しています。また、新たな補助循環装置が使用可能となっていますが、以前の治療と比べた予後の変化はわかっていません。

本研究は、大規模なデータベースを用いて我が国における現状の詳細を明らかにすることが目的です。この研究の成果は、心原性ショック治療の現状を明らかにすることで、将来的に、適切な治療の実施率や予後の改善に向けた基礎的な情報を提供します。

【利用する診療情報】

診断名、年齢、性別、身長、体重、血圧・脈拍、喫煙、既往歴、症状、入院日、退院日、在院日数、意識レベル、重症度、合併症、転帰、治療内容、日常生活動作、在宅医療の有無、要介護度、医療費など

【研究期間】 研究許可日より 2028 年 3 月 31 日まで（予定）

【個人情報の取り扱い】

日本循環器学会が実施する循環器診療の実態調査のデータベースは、すでに個人を直接特定できないよう加工されており、JROAD 事務局（国立循環器病研究センター 循環器病統合情報センター）にて厳重な管理のもとで保管しています。また、情報の利用および解析は、倫理審査委員会による承認と当機関の長の許可後に行われ、個人が特定できない解析されたデータのみが JROAD 事務局から研究者に提供されます。ご不明な点があれば、下記までお尋ねください。研究結果を学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人を特定できない形で行います。

【情報の管理について責任を有する者】

国立循環器病研究センター 理事長

【この研究の結果について】

この研究は、ご自身またはご家族の健康に関する新たな結果が得られるものではありませんので、研究の結果を個別にお知らせすることはありません。

[問合せ先] 国立循環器病研究センター 心臓血管内科 部長 野口暉夫
電話：06-6170-1070

JROAD 事務局：国立循環器病研究センター 情報利用促進部、E-mail：dpc-jroad@ml.ncvc.go.jp